

AA

日本ニュースレター No.86

第6回AA日本全国評議会

第6回AA日本全国評議会が2月10日から12日まで、東京深川のホテルB & Gで開催された。全国7地域からメンバーの良心を付託された評議員20名が集まり、常任理事、WSM評議員、JSOスタッフによって構成される評議会が事務局、ボランティアの協力のもとで熱い議論を交わした。以下は速報として皆様にお知らせするが、詳細に就いては報告書が届くのをお待ち願いたい。

日時：2001年2月10日(PM14:00)
～12日(PM12:00)

場所：東京・深川・ホテルB & G

全体会議

オリエンテーション (担当・事務局)

議長確認事項 (担当・1日目議長)

評議員及び常任理事の出席確認 (定足数3分の2以上で評議会成立)

* 定足数 30 出席28

評議員18名; 常任理事A類2名; 常任理事B類6名; JSO2名

定足数の3分の2以上で成立したことを確認後、プログラムどおり進行。

* 常任理事会議長によりA類常任理事の紹介

* 常任理事及びWSM評議員の自己紹介

B 常任理事・信任投票 (過半数)

* 有功投票数19名 2/1 10; 全員信任された。

JSO職員人事についての説明 (担当・野崎所長)

* 城間さんの就任挨拶; 2000年12月6日からJSOへ勤務 (出版関係、国際関係を含む全ての業務)

* 山本さんの退任挨拶; 2001年1月20日付けで退職 (スピーチは別紙で)

全体会議

常任理事会・報告 (各担当所常任理事より)

* 2000年度事業報告 * 2000年度決算報告

* 2001年度事業計画説明 * 2001年度予算計画説明

企画・JSO担当; 高橋理事 広報担当; 木村理事

出版担当; 金田理事 病院・施設担当; 今井理事

BOX916担当; 小泉理事

WSM報告; 野村評議員 JSO事業報告; 野崎所長

財務担当; 伊藤理事

全体会議

報告・提案事項の質疑、応答

企画・JSO担当: NPO法人化、評議会憲章について。

広報担当: ネットワーク構築について

出版担当: 12 & 12の改訂出版について、ハンドブック

の色について、ルビを振ることについて。

財務担当: 各理事会委員会の収支報告について。

評議会委員会 (分科会)

各委員会に分かれてそれぞれの議題提案事項の審議検討を行う。

議事委員会: 高橋理事、小宮山事務局長

則包評議員、村田評議員、桜井評議員、香川評議員

広報委員会: 平野理事、木村理事、野崎所長

熊田評議員、松尾評議員、高田評議員、原田評議員

出版委員会: 金田理事、小泉理事、野村WSM評議員、城間出版局担当

徳井評議員、高橋評議員、緒方評議員、窪田評議員

病院・施設委員会: 田辺理事、今井理事、林WSM評議員

秋元評議員、旅家評議員、斉藤評議員、堀之内評議員

財務委員会: 伊藤理事

佐藤評議員、渡辺評議員、桑田評議員、山田評議員

全体会議

ワールドサービスミーティング報告: 林 評議員 (代理)

山宮評議員は体調が整わず、残念ながら欠席で、林氏だけの報告となったが、今後の各地報告会において報告される。

全体会議

カントリーレポート: 各地域後期評議員

昨年提出されたレポートに基づき、各地からの報告があり、質疑応答が行われた。

全体会議

議事委員会: 第7回のテーマ「全体サービスと一体性」、および日程と場所の採択。

評議会憲章について、特別委員会を設置して検討を続けること。評議員会について。

30周年行事について、および記念誌の作成について。サービスフォーラムについて。

広報委員会: マスメディア対応について。メンバーシップサーベイについて。ホームページについて。

広報・病院・施設委員会 合同会議: ネットワーク構築について。

病院・施設委員会: 地域の問題点について。アンケートについて。

出版委員会: 12 & 12の改訂について。その再版について。ビッグブック文庫版について。カセットテープについて。出版に関係する各委員会について。

財務委員会: 2000年度決算の承認。2001年度予算について。その承認。以上

第6回評議会が熱い議論を交わし、一体性を確認しつつ閉会され、AA日本の21世紀がスタートした。この評議会の構成メンバーの紹介後に、JSOを退職された山本さんにご挨拶をいただいた。AA日本の財産を計り知れないほどたくさん残して下さったことをあらためて感謝したい。お話の全文は評議会報告書に掲載されるが、紙面の都合で若干割愛させていただいた部分があることをお許しいただきたい。

JSO 野崎

お別れに 特に評議会と翻訳に

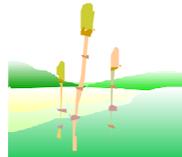
JSOでの日々を振り返れば、注文品の梱包や重い荷物の運搬から、殴り合いのけんかの仲裁にいたるまで、実にいろいろな仕事をやってきたのだが、最初から最後まで一貫して担当してきたのは翻訳出版と海外関連の仕事だった。AAの出版物というのは、当然、AAのプログラムの宝庫である。昔は本を読むとスリップするという言い伝えがかなりはびこっていたのだが、さすがに最近では聞かれなくなったのはすばらしい変化だと思う。翻訳の仕事というのは、表面的な言葉の入れ替え作業でない。内容を深く理解する必要がある。だからいつもAAのプログラムの深いところ、いわゆる純粋培養のAAの世界に浸ることができる幸せな仕事である。海外関連の仕事も同様で、連絡を取り合う人たちというのは、数十年も先にAAが生まれた国のサービス機構の中にいる人たちが主である。どんな問題も、ちゃんとメンバー一人一人の中に解決する力が働き、よい方向に進めるのだということ、経験によって示してくれた人たちだった。さらに、私が初めてAAに出会ったのは、ぱりぱりに元気な、燃えるような熱意で回復の喜びを語ってくれたオールドタイマーを通してだった。だから、アルコールの回復についても、AAがその人に効かないのではなく、その人がAAを働かせようとしないことに問題があると、きわめてシンプルに捉えることができた。ともかく、私のなかには何よりもまずプログラムの理想形が深く染み込んでいる。とはいえ、自分がその通りになることとの間には、まだまだ気の遠くなるような長い隔りがあるのだが。

さて、評議会についてだが、日本AAの20周年のときに全国代議員集会が開かれ、常任理事会を設定することが全国の代議員たちによって承認された。それまでは常任理事会がなかったために、全国代議員集会が日本AAの最高議決機関であり、古い順に関東のサービス常任委員会、次にJSOオフィス幹事会、そして94年に始まったオフィス運営委員会が全国サービスの代行を任されていた。各地域でサービス機構が熟してくるにつれ、地域評議員が選挙によって選出されるようになって、ゼネラルサービスミーティングはあくまでもミーティングだった。片肺飛行で出発したゼネラルサービスミーティングを評議会にするには、(概念9を引用し)「かつて日本のAAのオールドタイマー(オフィス幹事会や関東サービス常任委員会)によって実践されたリーダーシップは常任理事会常任理事によって引き継がなければならない」という、日本のサービスについて主導権や実際の責任を持つ常任理事会を設置することが必要だということが、20周年の

ときに代議員によって承認されたのである。私はそのようなオールドタイマーではもちろんないが、それまでのあらゆる意思決定に何らかのかたちで関わってきた。つまり、専従のオフィス職員というのは常にAAの仕事をしているから、当然意思決定に関わることになる。だがやがてそのことに、自分自身が疑問を持つようになってきた。評議員もサービス委員もオフィス幹事も任期がある。したがって、何年かしたら、その役割を退かなくてはならない。だからこそ、常駐のオフィススタッフの継続した経験が必要になるのだろうが、でも、自分自身にとって、それは次第に重いものになってきた。ニューヨークのGSOの所長で、20周年のときに参加してくれたジョージ・ドーシーに、ノン・アルコールの私が日本のAAに大きな影響力を働かせてしまっているようで、たとえば出版物の発行ひとつ取っても、勝手にこれが必要だと思えばそれを翻訳して発行しているわけで、そのことにとっても気持ちが揺らぐのだと相談を持ち掛けたことがあった。そのとき彼は、その出版物発行にしても、最終的な決定機関を伴ったサービス機構はないのか? 個人が何かを決定できるシステムというのは、AAにとって不健全なのだ。決定機関で承認されたことに沿って、あなたはあなたの能力を発揮すればいいのだ、と答えてくれた。まさに、最終決定機関である評議会の設立が差し迫って必要であることが、彼の言葉でも再確認された思いがあった。

いよいよ評議会がスタートした。当然、評議会決定されたことは、逆三角形のトップに位置する各AAグループのメンバーたちの意見が地区委員会で表明され、地域の良心によるけんけんがくがくの議論でふるいにかけてきた末に評議員に託され、評議会で集約されたものであるはずだった。それが私の理解だった。だから、どんな決定であれ、評議会での決定は絶対的なものであり、有給スタッフである私は、その決定に沿った業務をベストを尽くして実行してきた。だが、決定に沿って進めてきたその仕事数年後に完成したときには、もう評議会での決定事項は忘れられていたことがあった。

「寝耳に水だ」という抗議が押し寄せてきた。



評議会の意味、評議会承認されたことの重みについての認識は、メンバー一人一人の間で大きなばらつきがあるのは当然のことだろう。何しろ毎日毎日新しいメンバーがやってくる世界なのだから。だから翌年になったら昨年の決定事項がひっくりかえされることも、二年たったら決定されたことが白紙に戻ることも、この世界ではありうることだという意見もある。だとしたら、なんのための決定事項の実践なのだろうか。評議会ができたとき、これで、一人一人のメンバーの意見が全体サービスで表明される道筋ができたのだと、希望に輝いたものだった。それまでは、たとえ一人のメンバーが地域レベルでの共通理解を得る努力をしなかったとしても、声の大きな意見なら届けられ、したがって、それが取り上げられることになったことも多かったように思うからだ。

評議会というシステムは理想のかたちであると思う。現在の評議会システムでいろいろ問題が生じているのは、評議会という形が問題なのではなく、評議会システムがまだ十分に生かされていないからだと思う。メンバーがそれぞれの権利を充分に発揮できる理想型の評議会システムが、全国で活用さ

れる日が必ず来ることを信じている。

さて、前にも触れたが、出版物の翻訳というのは、単なる単語の入れ替え作業ではない。今回のビッグブック翻訳改訂に伴ない、なぜ翻訳改訂をする必要があるのかという疑問がいくつ寄せられた。改訂は、初期のころに翻訳されたものを否定するための作業ではない。AAのプログラムに触れてまだ数年のころには、一つ一つの英語の単語の意味は分かって、底に流れる意味までは理解できないということがたくさんある。長年の経験を積み重ね、AAプログラムのさまざまな側面に触れてはじめて、これはこういうことだったのだとやっと理解できることもある。そういうものを整理するための作業が翻訳改訂であることを、ご理解頂きたい。

最後に、どうしても十二のステップの改訂について触れなくてはならない。ステップ1の“生きていくことがどうにもならなくなった”の改訂についてである。この改訂検討作業の際には常任理事の全員が、そして、意見を求めたAAメンバーのほぼ大多数が、“生きていくことがどうにもならなくなった”を支持した。確かに、そこまでいかなければやめられなかったという実際の体験があり、そのことを、それぞれが心の底から確信し、回復の礎にしている。でも私を含め少数派ではあったが、この訳語に反対する一般のメンバーたちが何人もいた。すでにAAにつながった人にとっては、それはまさしく的を射た表現である。しかし、まだAAにつながっていない人に、あるいはやっとAAの入り口までやってきた人に、自分はまだ生きていくことがどうにもならなくなっていないのだから、まだやめなくていいのだという恰好の言い訳をAAが提供することになっていたのも事実である。AAの出版物の使命は、AAの存在理由と同様に、いまもまだ苦しんでいるアルコールに回復のメッセージを運ぶことである。ビル・Wもビッグブックの個人の物語改訂の覚え書きで「すでにAAにつながっている人たちは、仲間のお話を直接耳にすることができる。AAの本の読者は、むしろ、この

プログラムのことをよく知らない新しい人たちである」と述べている。その新しい人たちに回復というAAの希望のメッセージを運ぶにあたって、“生活がマネージできなくなった”というステップ1の英語の表現を、「生きていくことがどうにもならなくなった」という超訳的(言語の意味を超越した訳語)表現を使うことに異論を唱え、ともかく、原語の意味をそのまま表してほしいという強い要望を持って、私たちは“生きていくことが”の支持者であった出版担当常任理事を何時間もかけて説得したのだ。

長くなってしまったが、私も別の12のステップのプログラムを実践しているメンバーの一人であり、12のステップを生きる指針とする姿勢はAAメンバーと変わらないつもりだ。JSOという職場を離れた今も、私にとってこのプログラムは生きる支えである。今はミーティング三昧の毎日をごしているが、仕事を離れてプログラムに接することができることに、何とも言えない新鮮な思いがある。ほぼ19年間にわたり、自分の回復のためにJSOの仕事をしてきたのではないという自負はあるが、常にプログラムが身近にある環境だったのも歴然とした事実である。今、自分から求めてプログラムに触れていることに新たな喜びを感じている。

振り返ればAAとかかわっていたあの瞬間も、私の人生のハイライトの積み重ねだったと思う。あのようなチャンスを与えて下さった大いなる力と皆様に対する感謝の気持ちはこれからも私の中から消えることはないだろう。皆様、ほんとうにありがとうございました。最後に、このような機会を与えて下さった評議会事務局の皆様へ感謝申し上げます。

山本 幸枝



新刊案内 —— AA日本出版局

2001年1月

保健医療関係者の皆様へ - 社会資源としてのAA -

昨年の第5回評議会で、もう一冊パンフレットを翻訳して発行することが承認されていましたが、このほど、「保健医療関係者の皆様へ 社会資源としてのAA」(原題“AA as a Resource for the Health Care Professional”)が完成しました。アメリカ/カナダ評議会承認の出版物で、保健医療機関の関係者が飲酒の問題を持つ人をAAに紹介する際のアプローチの仕方やAAについての情報を提供しています。関係者や援助者のかたがたにAAを理解していただき、協力関係を深めていくために、ぜひメンバーの皆様からもこのパンフを配布、またはお勧めしていただけますようお願い申し上げます。





第2回全国サービスフォーラム IN HOKKAIDO

お知らせ

第2回全国サービスフォーラムの概要が決定しましたのでお知らせいたします。

宿泊、交通機関等の詳細が載ったものは、3月末～4月に送付できると思います。

大勢の仲間のご参加をお待ちしています。
季節柄、お体には十分お気をつけください。

AA北海道サービス・フォーラム実行委員会

北海道でやります!

昨年4月に中部・北陸地域で開催された「第1回全国サービス・フォーラム」から、もうすぐ1年が過ぎようとしています。名古屋城では満開の桜に驚き、フォーラムの会場ではその熱気に驚き、その熱の高さをそのまま北海道に持ち込んで、第2回の開催を同4月に地域集会で決議しました。

地域委員会が音頭をとって実行委員会が立ち上がり、全道から20数名もの仲間たちが参加して、第2回を実りあるものにしようと張り切っています。

9月のラウンド・アップには常任理事の方々にも参加していただき、北海道の特色を生かしたフォーラムを開催することが確認されました。

でもちょっとまてよ!? 北海道らしさってなんだ? 夕食にジンギスカンでも出すか、カニでも振る舞うか、みそラーメンなんてどうでしょう。5月の北海道は色とりどりの草花が一辺に咲き始め、それはそれはきれいなものです。

でも、本当のAA北海道地域らしさとは、全国規模のサービス・フォーラムを開催すること自体が、なかなか難しいという現実をお知らせすることなのだと考えているのです。

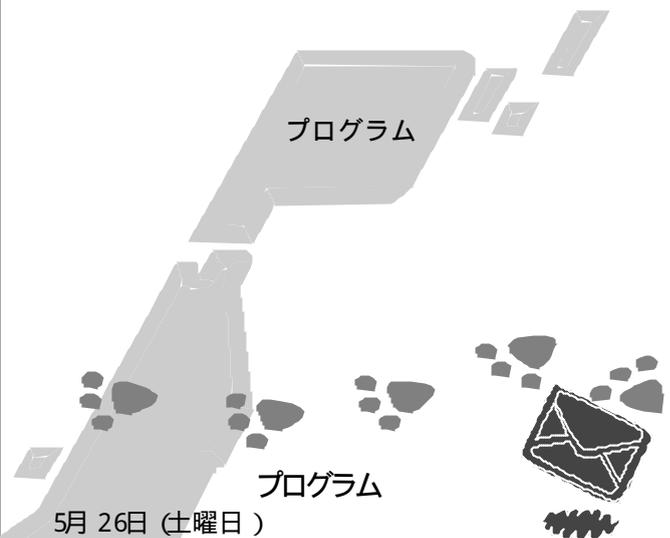
“会場は” “司会は” “プログラムは” “書記は” ……。一つ一つの事柄に頭を悩ませながら、それでも刻々と開催日は近づいてきます。

幸い、第1回の議事録(北海道ではとうていこんな詳しいものはできませんが)があるので、それを基本に考えることができ、少しずつ形になって、先日は「速報」ということで全国にお知らせすることができました。

わたしたちは考えています。サービスというプログラムで問題のない地域はないのだろうと。北海道が抱えている問題は、今どこかの地域が抱えているか、過去に経験した事柄だろうと。

その話を聞かせてください。新しい人たちも参加して分かち合ってください。グループの運営は、地域の活動はどうしてうまくいかないのか。どうしてサービスに携わるメンバーはいつも足りないのか。魅力がないのかあるのか……。

第2回全国サービス・フォーラムは、2001年5月26日・27日に北海道で開催されます。大勢のメンバーが参加して下さることを願っております。 実行委員



5月26日(土曜日)

- 13:00～受付開始
- 14:00～オープニングセレモニー
- 17:00～フェローシップ
- 18:00～夕食
- 19:00～分科会
- 21:00～フェローシップ

*フェローシップの会場を用意しております。

5月27日(日曜日)

- 09:00～分科会報告
全体会議・Q&A
- 13:00～閉会

分科会のテーマ *若干の変更あり

1. AAのひきつける魅力とは?
2. ホームグループ
代議員、役割
3. 地域サービス体系の現状
・地域委員会、セントラルオフィス
4. 多くのAAメンバーにサービスを担ってもらうには
・自分ができるサービス
・伝統5とAAメンバー

以上概要を速報の形でお知らせいたします。

問い合わせ先

第2回全国サービス・フォーラム実行委員会

062-0934札幌市豊平区平岸4条3丁目1-29
マンションカワイ1F1号室
北海道セントラルオフィス内

AA日本ニュースレターNo. 86

編集・発行: AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>